

既存不適格橋について考える 開催報告

日時：令和5年10月23日(月) 13:00～16:30 場所：岐阜県加茂郡七宗町内
参加者：白川町、東白川村、七宗町の道路管理者6名、岐阜県建設研究センター5名、中部F事務局

■ 開催の経緯

➤ R4.11.16に、七宗町を中心とした加茂郡内自治体の道路管理者が参加し、**小規模コンクリート橋に対するDIYイベント**を開催。継続的活動としてイベント後のアンケートを実施。**石積み橋台等の既存不適格橋に生じた変状の対処方法が知りたい**という意見が寄せられた。既存不適格橋の診断や措置は橋梁技術者でも悩むところであるため、道路管理者・橋梁技術者・利用者・納税者などの多角的な視点から、既存不適格橋そのものについて考える場を設けることとなった。

■ 開催目標

- 既存不適格橋を知り、抱える問題を理解する
- 現場で既存不適格な部分を見分けられるようにする
- 持続的なインフラ維持のために、既存不適格橋とどう向き合っていくかを考える

■ 座学 (13:00～14:30)

- 既存不適格橋になる理由と種類
- 不適格な部材の点検・診断・措置
- 既存不適格橋の使用とリスクマネジメント
 - ・ **基準が改定されれば既存不適格になっていくが、耐震性や耐荷力、使用上の安全性など、影響は様々。**
 - ・ **安全性の観点では、変状が無く健全な状態であることと、既存不適格橋をそのまま使い続けることは全く別の問題。**
 - ・ **既存不適格橋を使い続けるためには、リスクマネジメントの観点が不可欠。**



■ フィールド実習(15:00～16:30)

- 橋梁と周辺状況の確認による、既存不適格な箇所の抽出
- 点検調書への記載方法と健全性判定に対する意見交換
- 対策が必要な変状と、措置に対する意見交換
- 既存インフラの有効活用に対する意見交換
 - ・ **石積み橋台の沈下、華奢な防護柵、水切り未設置、桁かかり長の不足、に使用上の不安を感じた。**
 - ・ **管内橋梁一律の対策（措置）にはできない。橋毎に考える必要がある。**
 - ・ **路線として考えると、対策内容も変わる。**
 - ・ **維持管理していくうえで、既存不適格に対する情報整理も重要。**
 - ・ **地域住民との合意形成を、早い段階から進める必要がある。**
 - ・ **他県の成功事例に学ぶことも効果的。**

